



卒業式・修了式を開催しました

令和3年3月10日(水)



大学生活では講義や実習、行事などで多忙な時期もありましたが、その中で多くの事を学び、大切な思い出をつくることができました。充実した日々を送ることができたのは、支えてくれた家族や先生方、4年間で共に過ごした仲間がいてくれたからです。本当にありがとうございました。

卒業後は医療従事者としてそれぞれの道を進みますが、本学で仲間と共に歩んできた4年を忘れずに成長していきます。

臨床検査学科 4年 柚村 真緒



様々な期待や不安を膨らませ迎えた入学式から4年が経ちました。新型コロナウイルス感染症と共存しつつ学習する難しさを抱えながらも、実習の壁を突破することができました。どんなときでも共に支え合える友人、導いてくれた先生方や温かく見守ってくれた家族のサポートがあったからだ強く思います。

卒業後、進む道は異なりますが、仲間たちがそれぞれの場所で活躍していることを励みに、日々精進していきたいと思っています。

看護学科 4年 松浦 望央

修了生より

助産学専攻科での授業を通して、母子に関わる際、助産師が黒子となり家族の力を信じて見守ることもケアとして大切であると学ぶことができました。

今後、助産師として活躍していくうえで、これから出会う母子やその家族に寄り添えられるように、日々邁進していこうと思います。

助産学専攻科 小野 優衣

仕事が時間外に及ぶ日々の中、授業に出たり出なかったり、研究もなかなか進まず退学しようかと何度も心が折れそうになりましたが、指導教授の後押しと、他先生方、研究に参加頂いた保健師の皆様、また職場、家族に支えられ、研究発表するまでに至り、感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。

大学院保健医療学研究科
保健医療学専攻 修士課程 三村 直子

私は約20年間、検査技師として勤務していますが、日常的に遭遇する疑問点等はまだまだ多く、研究を通して解決する術を習得しようと進学を決意しました。働きながらの通学は大変不安ではありましたが、指導教員の先生はじめ周りの方々の支えにより修了を迎えることができました。今後は学んだことを生かしながら日々研鑽していきたいです。

大学院保健医療学研究科
臨床検査学専攻 博士前期課程 香西 宣秀

私は胚培養士として生殖補助医療に携わっております。「Noninvasive embryo evaluation method combining time-lapse images with biomarkers in follicular fluid and serum」というテーマで、質の高い卵子や胚を選択する方法を研究して参りました。今後も本校で学んだ知識と経験を活かし医療の質と成績向上のために挑戦を続けていければと思います。本研究を遂行するにあたりご指導いただきました先生方、そして温かく見守り激励下さいました皆様に感謝申し上げます。

大学院保健医療学研究科
臨床検査学専攻 博士後期課程 中澤 留美

大学院臨床検査学専攻 博士後期課程第4回学術セミナー

令和2年10月7日(水)

臨床検査学専攻長 中村 文洋

今回は完成年度後初めてであり、またコロナ禍でもあり、これまでと違うセミナーとなりました。対面とリモートのハイブリット形式で開催し、講師に香川大学脳神経外科の三宅啓介先生をお招きし、「脳腫瘍のゲノム医療」についてお話いただきました。また院生の発表に有益なアドバイスを頂戴し、有意義なセミナーとなりました。



大学院看護学専攻 博士後期課程第2回学術セミナー

令和2年11月16日(月)

看護学専攻長 高嶋 伸子

第2回学術セミナーが、令和2年11月16日(月)午後、201講義室で教員33名、学生11名参加のもと開催されました。まず「はじめての混合研究」と題して、青山学院大学 教授 抱井尚子先生にご講演いただき混合研究への関心が高まりました。続いて、後期課程の学生5名が研究の進捗状況を発表し、先生方からの確なご助言をいただき、有意義なセミナーとなりました。



本年度の地域連携推進センター活動をご報告いたします

地域連携推進センター センター長 多田 達史

本年度はコロナ禍で、感染対策や活動内容の工夫を行うことが必要でした。それでも看護・臨床検査学科の学生、教員で協力し、実施することができました。具体的には、健康サポーター養成講座、認知症サポーター養成講座、健康器具演習（血圧測定、骨密度測定など）、健康教育指導用媒体作成（パンフレット・教材）、公開講座に参加した地域の方々へ健康教育活動を行いました。また、地域連携推進センター室前の廊下にピクチャーレールを配置し、学生が作成した健康教育指導用媒体を展示しました。今後も地域に根ざした活動を目指していきたいと思っています。



地域の方々への健康教育活動

臨床検査学科 1年 武本 梨江

私の健康教育テーマは、「瀬戸内の野菜に含まれる栄養素とその働きについて」でした。見る人達が楽しんで理解できるように、ポスター資料と疑似的野菜収穫システムを用意し、その野菜に含まれる栄養素が分かるように工夫しました。地域の方々から褒めてもらい、より深く理解していただけたので、とても達成感を感じました。



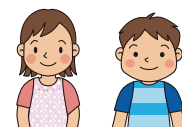
小学生のための秋のライフサイエンス教室

令和2年11月22日(日)

<Aコース> 音(超音波)を体験しよう！

臨床検査学科 講師 大栗 聖由

Aコースとして「音(超音波)を体験しよう！」を行い、実際の超音波検査を小学生に体験してもらいました。写真は、実際に小学生が模擬検体を用いて、超音波検査を行っているところです。参加した小学生からは、「目に見えないものでも超音波では見えることが面白かったです」といったご意見をいただき、開催した甲斐があったと感じました。



<Bコース> ICT・IOT を体験しよう！

看護学科 助教 諏訪 亜季子

Bコースでは、東京大学先端科学技術研究センターとソフトバンクグループが認定する魔法のティーチャー3名を特別講師に迎え、ハンディキャップに対応したコミュニケーションツールやテクノロジーを、児童とそのご家族26組が体験されました。

令和2年8月26日に、「県政について話そう」知事意見交換会が本学で開催されました。

まず、浜田知事は本学を視察され、井伊学長が校内における新型コロナウイルス感染症対策や令和4年4月に予定している保健師・助産師課程の大学院化に係る施設について説明しました。

意見交換会には、井伊学長及び看護学科・臨床検査学科の学生11名が参加し、「保健・医療の専門職として目標とする姿」、「大学生活に期待していたことや実際に学んだこと」、「就職やその後のキャリア形成について考えること」などについて意見交換が行われました。



公開講座「健やかに生きよう」

令和2年11月9日(月)

広報・公開講座委員長 松村 恵子

今年度は、第1回公開講座を本学大講義室で開催、58人の方が前向きに生きる熱い心意気で参加してくださいました。

講座は、看護学科の森田公美子講師による「がんの予防と検診のきほん」、臨床検査学科の池亀彰茂准教授による「・知って得する!血液検査、尿検査の前にやってはいけないことー正しい検査結果を得るためにー・知って得する!新型コロナウイルス感染対策」の2講座でした。

『がんを防ぐための新12カ条忘れないようにします』、『正しい検査結果を得るために気を付けることが理解でき良かったです』等、多くの好評意見をいただきました。



●お知らせ

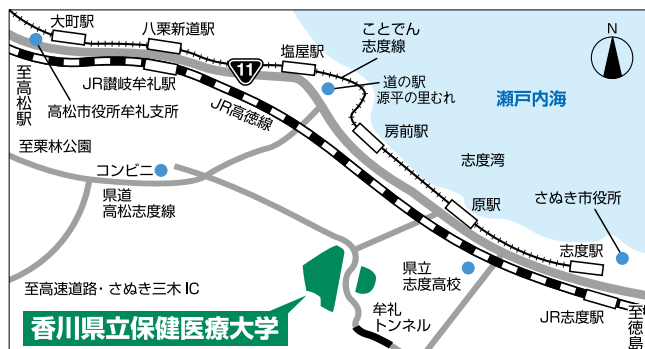
- ◆ 入学式 4月6日(火)
- ◆ オープンキャンパス 7月中旬予定
- ◆ 公開講座 8月下旬・11月中旬予定
- ◆ 橄欖祭(大学祭) 10月16日(土)予定
- ◆ いきいき健康広場 年1回
(8月の公開講座と同時開催予定)



香川県立保健医療大学

KAGAWA PREFECTURAL UNIVERSITY OF HEALTH SCIENCES

〒761-0123 香川県高松市牟礼町原281-1
 Tel:087-870-1212 Fax:087-870-1202
 E-mail:hokeniryodaigaku@pref.kagawa.lg.jp
<https://www.kagawa-puhs.ac.jp/>



◆学校への経路

- 【西方面から】高松から車で30分
 ことでん志度線・原駅下車徒歩10分
 高松東ICより車で10分
- 【東方面から】JR高徳線・JR志度駅から車で5分
 志度IC(または、さぬき三木IC)より車で10分

タイトルのHANDsは“高い専門的医療技術により、尊い生命を支える人間愛に溢れた温かい手”を意味しています。